

大学院生シンポジウム GS02

薬学がん研究の発展と未来を先導する若手がん研究者の挑戦

The challenge of young researchers leading the future and development of the pharmaceutical research on cancer

野々宮 悠真¹, 板垣 圭祐²

¹慶應大院薬, ²東京理大院薬

近年の日本において、がんは生涯のうちに2人にひとりが罹患する可能性があり、総死亡数の約3割を占める死因第1位の疾患となった。そのため、がん治療に対する研究を発展させることは、健全な長寿社会の実現につながると考えられている。現在では、様々な分子標的薬の開発が進められ、がん患者にとっては治療の選択肢が広がりつつある。さらに、先端技術が導入され、がん医療も変革期を迎えた。一方で、がんの特性解明、希少がんやAYA世代に対する治療方法の開発、治療薬に対する耐性問題、患者個人に合わせた個別化医療などに関する研究は未だ発展途上であり、若手がん研究者もこれら課題に積極的に挑戦していくことが望まれる。

そこで本シンポジウムでは、最先端の研究を様々な立場からアプローチしている若手がん研究者を集め、その成果を発表し、自由に活発に議論したい。同世代間の交流が新たな発想を得る刺激となり、大学院生の研究活動の活性化し、さらには薬学がん研究の発展へと繋がり、有益なものになると考える。このシンポジウムを若手がん研究者の未来への飛躍の第一歩となることを期待したい。